

(案)

チアジニル 農薬蜜蜂影響評価書

2025年3月5日

農業資材審議会農薬分科会

農薬蜜蜂影響評価部会

目 次

<経緯>	2
<農薬蜜蜂影響評価部会委員名簿>	2
I. 評価対象農薬の概要	3
1. 有効成分の概要	3
2. 有効成分の物理的・化学的性状	4
3. 申請に係る情報	5
4. 作用機作	5
5. 適用病虫害の範囲及び使用方法	6
II. ミツバチに対する安全性に係る試験の概要	8
1. ミツバチに対する安全性に係る試験	8
2. ミツバチ個体への毒性（毒性指標）	9
3. 花粉・花蜜残留試験	10
4. 蜂群への影響試験	10
III. 毒性指標	11
1. 毒性試験の結果概要	11
2. 毒性指標値	11
3. 毒性の強さから付される注意事項	11
IV. 暴露量の推計	11
V. 評価結果	11
評価資料	12
評価資料（公表文献）	12

<経緯>

令和 6 年 (2024年) 5 月 23 日	農業資材審議会への諮問
令和 7 年 (2025年) 3 月 5 日	農業資材審議会農薬分科会 農薬蜜蜂影響評価部会 (第16回)

<農薬蜜蜂影響評価部会委員名簿> (第 16 回)

(委員)	(臨時委員)	(専門委員)
五箇 公一	中村 純	永井 孝志
山本 幸洋		横井 智之

チアジニル

I. 評価対象農薬の概要

1. 有効成分の概要

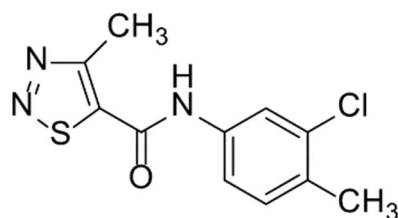
- 1.1 申請者 日本農薬株式会社
- 1.2 登録名 チアジニル
3'-クロロ-4,4'-ジメチル-1,2,3-チアジニル-5-カルボキサニリド
- 1.3 一般名 tiadinil (ISO 名)
- 1.4 化学名
IUPAC名 : 3'-chloro-4,4'-dimethyl-1,2,3-thiadiazole-5-carboxanilide

CAS名 : N-(3-chloro-4-methylphenyl)-4-methyl-1,2,3-thiadiazole-5-carboxamide
(CAS No. 223580-51-6)
- 1.5 コード番号 SV-89601、NNF-9850

1.6 分子式、構造式、分子量

分子式 $C_{11}H_{10}ClN_3OS$

構造式



分子量 267.74

2. 有効成分の物理的・化学的性状

試験項目		純度 (%)	試験方法	試験結果																																								
色調・形状		98.7	目視	薄い黄色、固体(粉末)																																								
臭気		98.7	官能法	弱い特異臭																																								
融点		98.7	OECD102	112.2 °C																																								
沸点		98.7	OECD103	測定不能 (250 °C付近で発熱を伴う反応を起こし、沸点は特定されず)																																								
密度		98.7	OECD109	1.47 g/cm ³ (20 °C)																																								
蒸気圧		98.7	OECD104	1.03 × 10 ⁻⁶ Pa (25 °C)																																								
熱安定性		98.7	OECD113	200 °Cまで安定																																								
溶解度	水		99.9	OECD105	13.2 mg/L (20 °C)																																							
	有機溶媒	ヘキサン	98.7	OECD105	0.0740 g/L (20°C)																																							
		トルエン			11.8 g/L (20 °C)																																							
		ジクロロメタン			156 g/L (20 °C)																																							
		アセトン			434 g/L (20 °C)																																							
		メタノール			123 g/L (20 °C)																																							
		酢酸エチル			198 g/L (20 °C)																																							
	解離定数 (pK _a)		98.7	OECD112	10.84 (20 °C)																																							
1-オクタノール／水分配係数 (log P _{ow})		99.9	OECD107	3.68 (25 °C)																																								
加水分解性		99.9	OECD111	安定(50 °C、5日間、pH 4) 半減期866日(25 °C、pH 7) 半減期286日(25 °C、pH 9)																																								
水中光分解性		99.4 99.1	9農産第5089号	半減期 36.4~39.6 時間 (pH 5.45~6.00、25.5 °C、77.4~84.1 W/m ² 、280~800 nm)																																								
紫外可視吸収 (UV/VIS) スペクトル		99.9	<table><tr><td>極大吸収波長 (nm)</td><td>吸光度</td><td>モル吸光係数 (L mol⁻¹ cm⁻¹)</td></tr><tr><td colspan="3">中性</td></tr><tr><td>205</td><td>1.1814</td><td>28193</td></tr><tr><td>235</td><td>0.5452</td><td>13010</td></tr><tr><td>274</td><td>0.3652</td><td>8715</td></tr><tr><td colspan="3">酸性 (メタノール/1 mol/L HCl水溶液 (90/10(v/v)))</td></tr><tr><td>205</td><td>1.1512</td><td>27472</td></tr><tr><td>235</td><td>0.5265</td><td>12564</td></tr><tr><td>274</td><td>0.3598</td><td>8586</td></tr><tr><td colspan="3">アルカリ性 (メタノール/1 mol/L NaOH水溶液 (90/10(v/v)))</td></tr><tr><td>219</td><td>0.6381</td><td>15227</td></tr><tr><td>254</td><td>0.5029</td><td>12001</td></tr><tr><td>310</td><td>0.1815</td><td>4331</td></tr></table>			極大吸収波長 (nm)	吸光度	モル吸光係数 (L mol ⁻¹ cm ⁻¹)	中性			205	1.1814	28193	235	0.5452	13010	274	0.3652	8715	酸性 (メタノール/1 mol/L HCl水溶液 (90/10(v/v)))			205	1.1512	27472	235	0.5265	12564	274	0.3598	8586	アルカリ性 (メタノール/1 mol/L NaOH水溶液 (90/10(v/v)))			219	0.6381	15227	254	0.5029	12001	310	0.1815	4331
			極大吸収波長 (nm)	吸光度	モル吸光係数 (L mol ⁻¹ cm ⁻¹)																																							
			中性																																									
			205	1.1814	28193																																							
			235	0.5452	13010																																							
			274	0.3652	8715																																							
			酸性 (メタノール/1 mol/L HCl水溶液 (90/10(v/v)))																																									
			205	1.1512	27472																																							
			235	0.5265	12564																																							
			274	0.3598	8586																																							
			アルカリ性 (メタノール/1 mol/L NaOH水溶液 (90/10(v/v)))																																									
			219	0.6381	15227																																							
			254	0.5029	12001																																							
			310	0.1815	4331																																							

試験項目	試験方法	試験結果
土壌吸着係数	OECD106	K_{ads_Foc} : 998~1264 (4種類の国内土壌)
土壌残留性	12農産第8147号	粒剤(3回全面散布)、水田土壌(2種類) : 半減期 2.9日 (土壌の深さ10 cm、SFOまたはDFOPモデルによる推定値)

3. 申請に係る情報

2023 年現在、韓国で登録されている。

4. 作用機作

チアジニルは、病原菌に対する直接的な作用はなく、本剤を処理することにより稲のいもち病等に対する抵抗性が誘導されることで効果を発揮すると考えられている。

(FRAC 分類 : P3※)

※参照 : <https://www.frac.info/>

5. 適用病害虫の範囲及び使用方法（26 製剤、別添参照）

- ・ ブイゲット箱粒剤
（チアジニル 12.0 %粒剤）
- ・ ブイゲット粒剤
（チアジニル 6.0 %）
- ・ ブイゲットプリンス粒剤 1 0 及びコメホープ箱粒剤
（フィプロニル 1.0 %・チアジニル 12.0 %粒剤）
- ・ ブイゲットアドマイヤー粒剤
（イミダクロプリド 2.0 %・チアジニル 12.0 %粒剤）
- ・ ブイゲットフロアブル
（チアジニル 30.0 %水和剤）
- ・ ブイゲットバリアード粒剤
（チアクロプリド 1.5 %・チアジニル 12.0 %粒剤）
- ・ ブイゲットプリンスリンバー L 粒剤
（フィプロニル 1.0 %・チアジニル 6.0 %・フラメトピル 4.0 %粒剤）
- ・ アプライプリンス粒剤 1 0
（フィプロニル 1.0 %・チアジニル 12.0 %粒剤）
- ・ アプライ箱粒剤
（チアジニル 12.0 %粒剤）
- ・ アプライフェルテラ粒剤
（クロラントラニリプロール 0.75 %・チアジニル 12.0 %粒剤）
- ・ ブイゲットフェルテラチェス L 粒剤
（クロラントラニリプロール 0.75 %・ピメトロジン 3.0 %チアジニル 6.0 %粒剤）
- ・ ブイゲットフェルテラ粒剤
（クロラントラニリプロール 0.75 %・チアジニル 12.0 %粒剤）
- ・ OATブイゲットグランドオンコル粒剤
（ベンフラカルブ 8.0 %・チアジニル 12.0 %粒剤）
- ・ ブイゲットパディート粒剤
（シアントラニリプロール 0.75 %・チアジニル 12.0 %粒剤）
- ・ アプライパディート粒剤
（シアントラニリプロール 0.75 %・チアジニル 12.0 %粒剤）
- ・ ブイゲットバイソン粒剤
（チアクロプリド 1.0 %・チアジニル 12.0 %粒剤）
- ・ ブイゲットフェルテラゼクサロン L 粒剤
（クロラントラニリプロール 0.75 %・トリフルメゾピリム 0.75 %・チアジニル 6.0 %粒剤）
- ・ ブイゲットハコレンジャー L 粒剤及びハコガード粒剤
（クロラントラニリプロール 0.75 %・トリフルメゾピリム 0.75 %・チアジニル 6.0 %・
チフルザミド 3.0 粒剤）

- ・ブイゲットパディートフロアブル
(シアントラニリプロール 1.87 %・チアジニル 30.0 %水和剤)
- ・リョーガパディート粒剤
(シアントラニリプロール 0.75 %・チアジニル 12.0 %粒剤)
- ・ブイゲットパラタスL粒剤
(スピネトラム 0.75 %・トリフルメゾピリム 0.75 %・チアジニル 6.0 %粒剤)
- ・リョーガエザルタ粒剤
(スピネトラム 0.75 %・チアジニル 12.0 %粒剤)
- ・リョーガフェルテラ粒剤
(クロラントラニリプロール 0.75 %・チアジニル 12.0 %粒剤)
- ・ブイゲットバイソンE V粒剤
(チアクロプリド 1.0 %・チアジニル 12.0 %・ペンフルフェン 2.0 %粒剤)

Ⅱ. ミツバチに対する安全性に係る試験の概要

1. ミツバチに対する安全性に係る試験

チアジニルのミツバチに対する安全性に係る試験を表1に示す。

表1：ミツバチに対する安全性に係る試験

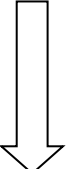
試験の種類	評価段階	試験数	公表文献数*
成虫単回接触毒性試験	第1段階	1	0
成虫単回経口毒性試験		1	0
成虫反復経口毒性試験		0	0
幼虫経口毒性試験		0	0
花粉・花蜜残留試験		0	
蜂群への影響試験	第2段階	0	

*（参考）公表文献の検索結果

（生活環境動植物及び家畜に対する毒性に関する分野）

データベース名： Web of Science (Core Collection)及びJ-STAGE(資料3)

検索対象期間： Web of Science (Core Collection)：2007年7月34日から2022年9月6日
J-STAGE：2007年から2022年

全ての分野の文献数	50
 【表題と概要に基づく適合性の有無の評価】 明らかに評価の目的と適合しない文献の除外	
「適合性なし」以外の文献数	0
 【全文に基づく適合性の有無の評価】 評価の目的と適合しない文献の除外	
「適合性あり」の文献数	0
 【適合性の分類】 分類基準を設定して全文をレビューし、評価目的への適合性を a、b、c の3つの区分に分類 区分a；リスク評価パラメーターを設定又は見直すために利用可能と判断される文献 区分b；リスク評価パラメーターを設定する際の補足データとして利用が可能と想定される文献 区分c；a又はbに分類されない文献	
「区分a~c」に分類された文献数	0
 試験生物として「セイヨウミツバチ（ <i>Apis mellifera</i> ）」 を用いている	
審議の対象とする文献数	0

※公表文献に関する情報募集（令和5年12月22日～令和6年1月20日）で寄せられた情報はない。

2. ミツバチ個体への毒性（毒性指標）

2.1 成虫単回接触毒性試験

セイヨウミツバチ成虫を用いた単回接触毒性試験が実施され、48 h LD₅₀ は >99.7 µg ai/bee であった。

表 2：単回接触毒性試験結果（資料 1、2013 年）

被験物質	原体						
供試生物/反復	セイヨウミツバチ(<i>Apis mellifera</i>)/ 3反復、20頭/区						
準拠ガイドライン	OECD214、OPPTS850.3020、EPPO170						
試験期間	48 h						
投与溶媒(投与液量)	アセトン(2 µL)						
暴露量 (設定値に基づく有効成分 換算値) (µg ai /bee)	対照区 (無処理) (死亡率 %)	対照区 (アセトン) (死亡率 %)	6.23	12.5	24.9	49.9	99.7
死亡数/供試生物数(48 h)	3/60 (5 %)	1/60 (1.7 %)	1/60	3/60	1/60	1/60	3/60
観察された行動異常	無気力						
LD ₅₀ (µg ai /bee) (48 h)	>99.7						

2.2 成虫単回経口毒性試験

セイヨウミツバチ成虫を用いた単回経口毒性試験が実施され、48 h LD₅₀ は >99.7 µg ai/bee であった。

表 3：単回経口毒性試験結果（資料 2、2013 年

被験物質	原体					
供試生物/反復	セイヨウミツバチ(<i>Apis mellifera</i>)/ 3反復、10頭/区					
準拠ガイドライン	OECD213、EPPO170					
試験期間	48 h					
投与溶液(投与液量)	50 %シロ糖溶液(200 µL/区)					
助剤(濃度%)	なし					
暴露量 (摂餌量に基づく有効成分 換算値) (µg ai/bee)	対照区 (無処理) (死亡率 %)	6.23	12.5	24.9	49.9	99.7
死亡数/供試生物数(48 h)	1/30 (3.3 %)	0/30	1/30	0/30	0/20*	1/30
観察された行動異常	無気力					
LD ₅₀ (µg ai/bee) (48 h)	>99.7					

*3 反復のうち 1 つの反復で、投与期間終了後の給餌をしなかったことによる死亡が認められたため、当該反復は除外した。

2.3 成虫反復経口毒性試験

該当なし

2.4 幼虫経口毒性試験

該当なし

3. 花粉・花蜜残留試験

該当なし

4. 蜂群への影響試験

該当なし

Ⅲ. 毒性指標

1. 毒性試験の結果概要

毒性試験の結果概要を表 4 に示す。

表 4：各試験の毒性値一覧

毒性試験	毒性値	
	エントポイント	試験1
成虫単回接触毒性	48 h LD ₅₀ (μg ai/bee)	>99.7
成虫単回経口毒性		>99.7

2. 毒性指標値

チアジニルの蜜蜂への影響評価に用いる毒性指標値は以下のとおりとした（表 5）。

(1) 成虫単回接触毒性

48 h LD₅₀ 値 (>99.7 μg ai/bee) を採用し、毒性指標値を 99 μg ai/bee とした。

(2) 成虫単回経口毒性

48 h LD₅₀ 値 (>99.7 μg ai/bee) を採用し、毒性指標値を 99 μg ai/bee とした。

表 5：チアジニルのミツバチへの影響評価に用いる毒性指標値

生育段階	毒性試験の種類	毒性指標値(単位)	
成虫	単回接触毒性	48h LD ₅₀ (μg ai/bee)	99
	単回経口毒性		99

3. 毒性の強さから付される注意事項

成虫単回接触毒性及び成虫単回経口毒性共に LD₅₀ は 11 μg/bee 以上であったため、注意事項は要しない。

Ⅳ. 暴露量の推計

本剤は、昆虫成長制御剤に該当せず、成虫の急性接触毒性（単回接触毒性試験の LD₅₀ 値）が 11 μg/bee 以上であること、及び成虫の急性接触毒性以外の毒性値が超値（成虫単回経口毒性試験 LD₅₀ : >99.7 μg/bee）であることから、1 巡目の再評価において、リスク評価を行う対象とはしない。そのため、暴露量の推計は行わない。

Ⅴ. 評価結果

チアジニルは、申請された使用方法に基づき使用される限りにおいて、ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはないと考えられる。

評価資料

資料 番号	報告年	題名、出典（試験施設以外の場合） 試験施設、報告書番号 GLP 適合状況（必要な場合）、公表の有無
1	2013	Tiadinil: An Acute Contact Toxicity Study with the Honey Bee Wildlife International 報告書番号: 397P-101 GLP、未公表
2	2013	Tiadinil: An Acute Oral Toxicity Study with the Honey Bee Wildlife International 報告書番号: 397P-102 GLP、未公表
3	2023	チアジニルの公表文献に関する報告書 公表

評価資料（公表文献）

該当なし

別添：適用病害虫の範囲及び使用方法（チアジニル）

目 次

1. 登録番号 21048：ブイゲット箱粒剤 （チアジニル 12.0 %粒剤）	3
2. 登録番号 21049：ブイゲット粒剤 （チアジニル 6.0 %粒剤）	3
3. 登録番号 21052：ブイゲットプリンス粒剤 10、 登録番号 22003：コメホープ箱粒剤 （フィプロニル 1.0 %・チアジニル 12.0 %粒剤）	3
4. 登録番号 21053：ブイゲットアドマイヤー粒剤 （イミダクロプリド 2.0 %・チアジニル 12.0 %粒剤）	4
5. 登録番号 21298：ブイゲットフロアブル （チアジニル 30.0 %水和剤）	4
6. 登録番号 21357：ブイゲットバリアード粒剤 （チアクロプリド 1.5 %・チアジニル 12.0 %粒剤）	5
7. 登録番号 22010：ブイゲットプリンスリンバー L 粒剤 （フィプロニル 1.0 %・チアジニル 6.0 %・フラメトピル 4.0 %粒剤）	6
8. 登録番号 22039：アプライプリンス粒剤 10 （フィプロニル 1.0 %・チアジニル 12.0 %粒剤）	7
9. 登録番号 22425：アプライ箱粒剤 （チアジニル 12.0 %粒剤）	8
10. 登録番号 22786：アプライフェルテラ粒剤 （クロラントラニリプロール 0.75 %・チアジニル 12.0 %粒剤）	9
11. 登録番号 23302：ブイゲットフェルテラチェス L 粒剤 （クロラントラニリプロール 0.75 %・ピメトロジン 3.0 %チアジニル 6.0 %粒剤）	10
12. 登録番号 23475：ブイゲットフェルテラ粒剤 （クロラントラニリプロール 0.75 %・チアジニル 12.0 %粒剤）	11
13. 登録番号 23605：OATブイゲットグランドオンコル粒剤 （ベンフラカルブ 8.0 %・チアジニル 12.0 %粒剤）	12
14. 登録番号 23666：ブイゲットパディート粒剤 （シアントラニリプロール 0.75 %・チアジニル 12.0 %粒剤）	13
15. 登録番号 23751：アプライパディート粒剤 （シアントラニリプロール 0.75 %・チアジニル 12.0 %粒剤）	14
16. 登録番号 23990：ブイゲットバイソン粒剤	

(チアクロプリド 1.0 %・チアジニル 12.0 %粒剤)	15
17. 登録番号 24135 : ブイゲットフェルテラゼクサロンL 粒剤 (クロラントラニリプロール 0.75 %・トリフルメゾピリム 0.75 %・チアジニル 6.0 %粒剤)	16
18. 登録番号 24233 : ブイゲットハコレンジャーL 粒剤、 登録番号 24356 : ハコガード粒剤 (クロラントラニリプロール 0.75 %・トリフルメゾピリム 0.75 %・チアジニル 6.0 %・チフルザ ミド 3.0 粒剤)	17
19. 登録番号 24711 : ブイゲットパディートフロアブル (シアントラニリプロール 1.87 %・チアジニル 30.0 %水和剤)	18
20. 登録番号 24712 : リョーガパディート粒剤 (シアントラニリプロール 0.75 %・チアジニル 12.0 %粒剤)	19
21. 登録番号 24715 : ブイゲットパラタスL 粒剤 (スピネトラム 0.75 %・トリフルメゾピリム 0.75 %・チアジニル 6.0 %粒剤)	20
22. 登録番号 24718 : リョーガエザルタ粒剤 (スピネトラム 0.75 %・チアジニル 12.0 %粒剤)	21
23. 登録番号 24719 : リョーガフェルテラ粒剤 (クロラントラニリプロール 0.75 %・チアジニル 12.0 %粒剤)	22
24. 登録番号 24720 : ブイゲットバイソンE V 粒剤 (チアクロプリド 1.0 %・チアジニル 12.0 %・ペンフルフェン 2.0 %粒剤)	23

1. 登録番号 21048 : ブイゲット箱粒剤
(チアジニル 12.0 %粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	チアゾニルを含む 農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 もみ枯細菌病 白葉枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌)	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約5 L) 1箱当り 50 g	緑化期～ 移植当日	1回	育苗箱中の 苗の上から 均一に散布 する。	3回以内(育苗箱散布 及び側条施用は合計 1回以内、本田での 散布は2回以内)
	内穎褐変病		移植当日			

2. 登録番号 21049 : ブイゲット粒剤
(チアジニル 6.0 %粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	チアジニルを含む 農薬の総使用回数
稲	いもち病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 白葉枯病	3 kg/10 a	葉いもちの初発 20~7日前(収穫 45日前まで)	2回 以内	湛水散布	3回以内(直播では種時 又は移植時までの処理は 1回以内、本田での散布は 2回以内)

3. 登録番号 21052 : ブイゲットプリンス粒剤 10、
登録番号 22003 : コメホープ箱粒剤
(フィプロニル 1.0 %・チアジニル 12.0 %粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	フィプロニルを 含む農薬の 総使用回数	チアゾニルを 含む農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 イネスズムシ イネトヨモミシ ウンカ類 コブノメカ ニカメイチュウ イナゴ類 イネツトムシ 白葉枯病	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g	緑化期～ 移植当日	1 回	育苗箱 の上か ら均一 に散布 する。	1 回	3 回以内(移 植時までの 処理は 1 回以内、 本田での 散布は 2 回 以内)
		高密度には種する場 合は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)					
	もみ枯細菌 病 内穎褐変病	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50g	移植当日				

4. 登録番号 21053 : ブイゲットアドマイヤー粒剤

(イミダクロプリド 2.0 %・チアジニル 12.0 %粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	イミダクロプリド を含む農薬の 総使用回数	チアジニルを 含む農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 イネミズウムシ イネトノオモシ ツマグロヨコバイ ウンカ類 イネヒメハモグリバエ イネアザミウマ	高密度には種する 場合は 1 kg/10 a(育 苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5L) 1 箱当り 50~100 g)	移植 2 日前 ~移植当日	1 回	育苗箱中 の苗の上 から均一 に散布 する	3 回以内(移植 時までの処理 は 1 回以内、 本田での散布 は 2 回以内)	3 回以内 (移植時まで の処理は 1 回以内、本 田での散布 は 2 回以内)
		育苗箱 (30×60×3cm、使用 土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g					
	内穎褐変病	高密度には種する 場合は 1 kg/10 a(育 苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50~100g)	移植当日				

5. 登録番号 21298 : ブイゲットフロアブル

(チアジニル 30.0 %水和剤)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤 の 使用 回数	使用 方法	チアジニルを 含む農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病	25~50 倍	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 500 mL	移植 3 日前 ~移植当日	1 回	灌注	3 回以内(移植 時までの処理 は 1 回以内、 本田での散布 は 2 回以内)
	白葉枯病 もみ枯細 菌病	50 倍					
稲	いもち病	原液	400~500 mL/10 a	移植時		ペースト 肥料に混 合し側条 施肥田植 機で施用 する。	3 回以内(直播 での種時又 は移植時ま での処理は 1 回 以内、本田で の散布は 2 回 以内)

6. 登録番号 21357 : ブイゲットバリアード粒剤

(チアクロプリド 1.5 %・チアジニル 12.0 %粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	チアクロプリドを 含む農薬の 総使用回数	チアジニルを 含む農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 いねみずくさ いねつらみ つまぐさ 白葉枯病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌 約 5 L)1 箱当り 50 g	移植 10 日前 ～移植当日	1 回	育苗箱 中の苗 の上か ら均一 に散布 する	1 回	3 回以内(移 植時までの 処理は 1 回 以内、本田 での散布は 2 回以内)
	もみ枯細菌病		移植 3 日前 ～移植当日				
	ニカメイチュウ		移植当日				
	いもち病 いねみずくさ いねつらみ つまぐさ 白葉枯病	高密度には種 する場合は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌 約 5 L)1 箱当り 50~100 g)	移植 10 日前 ～移植当日				
	もみ枯細菌病		移植 3 日前 ～移植当日				
	ニカメイチュウ		移植当日				

7. 登録番号 22010 : ブイゲットプリンスリンバーL粒剤

(フィプロニル 1.0 %・チアジニル 6.0 %・フラメトピル 4.0 %粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法
稲 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 カンカ類 ヒカメイチュウ イネミズゾウムシ イネトモイシ コブノメイガ イネトミ 白葉枯病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌 約 5 L)1 箱当り 50 g	緑化期 ～ 移植当日	1 回	本剤の所定 量を育苗箱 中の苗の上 から均一に 散布する。
		高密度には種する場合は 1 kg/10 a (育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌 約 5 L)1 箱当り 50~100 g)			
	もみ枯細菌病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌 約 5 L)1 箱当り 50g	移植 3 日前 ～ 移植当日		
		高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)			
	内穎褐変病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌 約 5 L)1 箱当り 50 g	移植 当日		
		高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗 箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50~100 g)			

フィプロニルを含む農薬の 総使用回数	チアジニルを含む農薬の 総使用回数	フラメトピルを含む農薬の 総使用回数
1回	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、 本田での散布は2回以内)	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)

8. 登録番号 22039 : アブライプリンス粒剤 10
(フィプロニル 1.0 %・チアジニル 12.0 %粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	フィプロニルを 含む農薬の 総使用回数	チアジニルを 含む農薬の 総使用回数		
稲 (箱育苗)	いもち病	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g	は種前	1 回	本剤の所 定量を育苗箱の床 土又は覆 土に均一 に混和す る。	1 回	3回以内(移植時までの 処理は1回 以内、本田 での散布は 2回以内)		
		高密度には種する場 合は1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、使用 土壌約5 L)1箱当り 50~100 g)							
	いねみずぐさ いねつら いねめづ	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g			高密度には種する場 合は1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約5 L) 1箱当り 50~100 g)			本剤の所 定量を育苗箱の床 土に均一 に混和す る。	
	いもち病 白葉枯病 いねみずぐさ いねつら いねめづ いねめづ いねめづ いねめづ	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g	は種時 覆土前~ 緑化始期		本剤の所 定量を育苗箱の上 から均一 に散布 する。				
		高密度には種する場 合は1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約5 L) 1 箱当り 50~100 g)							
		もみ枯細菌 病 内穎褐変病	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g					は種時 覆土前	
			高密度には種する場 合は1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約5 L) 1箱当り 50~100 g)						

9. 登録番号 22425 : アプライ箱粒剤
(チアジニル 12.0 %粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	チアジニルを含む 農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g	は種前	1 回	本剤の所定量 を育苗箱の床 土に均一に混 和する	3回以内(移植時までの処理は1回以内、 本田での散布は2回 以内)
	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病		は種時 覆土前		本剤の所定量 を育苗箱の上 から均一に散 布する	

10. 登録番号 22786 : アプライフェルテラ粒剤

(クロラントラニプロール 0.75 %・チアジニル 12.0 %粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	クロラントラ ニプロール を含む 農薬の総 使用回数	チアジニルを 含む農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g	は種前	1 回	本剤の所定 量を育苗箱 の床土又は 覆土に 均一に混和 する。	1回	3回以内(移植 時までの処理 は1回以内、 本田での散布 は2回以内)
		高密度には種する場 合は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50~100 g)					
	いねすゞうし いねづかい	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g			本剤の所定 量を育苗箱 の床土に 均一に混和 する。		
		高密度には種する場 合は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50~100 g)					
	いもち病 いねすゞうし いねづかい 白葉枯病 もみ枯細菌病 かめいチュウ ツマゲロコハイ フタヒコヤカ コブノメイガ いねめもぐりハエ	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g	は種時 覆土前		本剤の所定 量を育苗箱 の上から 均一に散布 する。		
		高密度には種する場 合は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50~100 g)					

1 1. 登録番号 23302 : ブイゲットフェルテラチェス L 粒剤

(クロラントラニリプロール 0.75 %・ピメトロジン 3.0 %チアジニル 6.0 %粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 イネミズウムシ イネトヨイムシ ウナカ類 ツマグロヨコバイ コブノメカ フタホシコヤカ ニカメチュウ	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g	緑化期 ～ 移植当日	1 回	本剤の所定量を 育苗箱の上から 均一に散布する
	イネツトムシ		移植 3 日前 ～ 移植当日		
	内穎褐変病		移植当日		

クロラントラニリプロールを含む農薬の 総使用回数	ピメトロジンを含む農薬の 総使用回数	チアジニルを含む農薬の 総使用回数
1回	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田 では2回以内)	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田で の布は2回以内)

1 2. 登録番号 23475 : ブイゲットフェルテラ粒剤

(クロラントラニプロール 0.75 %・チアジニル 12.0 %粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	クロラントラニプロール を含む農薬の 総使用回数	チアジニルを含む 農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 ヒメハダ イネミズウムシ イネトヨイムシ ツマグロヨコバイ アオヒヨコガ	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g	緑化期 ～ 移植 当日	1 回	本剤の 所定量を 育苗箱の 上から均 一に散布 する。	1回	3回以内(移植時 までの処理は 1回以内、本田 での散布は2回 以内)
		高密度には種する場合 は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50~100 g)					
	もみ枯細菌病 イネヒメハダ	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g	移植 3 日前 ～ 移植 当日				
		高密度には種する場合 は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50~100 g)					
	コブノメカ イネツトムシ	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g	移植 当日				
		高密度には種する場合 は 1 kg/10a(育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50~100 g)					

1 3. 登録番号 23605 : O A T ブイゲットグランドオンコル粒剤
(ベンフラカルブ 8.0 %・チアジニル 12.0 %粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	ベンフラカルブを 含む農薬の 総使用回数	チアジニルを 含む農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 もみ枯細菌病 白葉枯病 イネミズウムシ イネトヨイムシ ヒメトビウンカ セジロウンカ ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ イネツトムシ イネヒメギリバエ イネシガラヒメチユウ イネカラバエ	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g	移植前 3 日 ～ 移植 当日	1 回	本剤の所 定量を育 苗箱の苗 の上から 均一に散 布する。	1 回	3 回以内(移植 時までの処理 は 1 回以内、 本田での散布 は 2 回以内)
		高密度には種する場 合は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)	移植 当日				
	フタオビユカ	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g					

1 4. 登録番号 23666 : ブイゲットパディート粒剤

(シアントラニリプロール 0.75 %・チアジニル 12.0 %粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニプロールを含む農薬の総使用回数	チアジニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 イネミズゾウムシ イネトヨイムシ ニカメイチュウ ツマグロヨコバイ イネヒメハモグリバエ アオビコヤカ コブノメカ イナゴ類	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	緑化期 ～ 移植当日	1 回	本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する。	1回	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田での散布は 2 回以内)
	高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)						
	イネツトムシ ヒメトビウナ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	移植 3 日前 ～ 移植当日				
		高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)					
稲	いもち病 イネトヨイムシ イネミズゾウムシ	1 kg/10 a	移植時		側条施用		3 回以内(直播では種時又は移植時までの処理は 1 回以内、本田での散布は 2 回以内)
直播水稲	いもち病 イネミズゾウムシ イネトヨイムシ		は種時		は種同時施肥機を用いて土中施用する。		3 回以内(は種時までの処理は 1 回以内、本田での散布は 2 回以内)

1 5. 登録番号 23751 : アプライパディート粒剤

(シアントラニプロール 0.75 %・チアジニル 12.0 %粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	シアントラニプロール を含む農薬の 総使用回数	チアジニルを 含む農薬の 総使用回数
稲(箱育苗)	いもち病 いねみづうみ いねつらみ	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g	は種前	1 回	本剤の所定 量を育苗箱 の床土又は 覆土に均一 に混和 する。	1 回	3 回以内(移植 時までの処理 は1 回以内、 本田での散布 は2 回以内)
		高密度には種する場合 は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50~100 g)					
	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 いねみづうみ いねつらみ こめいぢゅ つまぐろこハイ ふたおこやか いねみほろりハエ いねつらみ こめノメイ いねつらみ いねつらみ	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g	は種時 覆土前		本剤の所定 量を育苗箱 の上から均 一に散布 する。		
		高密度には種する場合 は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50~100 g)					

16. 登録番号 23990：ブイゲットバイソン粒剤

(チアクロプリド 1.0 %・チアジニル 12.0 %粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	チアクロプリドを 含む農薬の 総使用回数	チアジニルを 含む農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 いねむし いねもち	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g	緑化期 ～ 移植 当日	1 回	育苗箱の 上から均 一に散布 する。	1回	3回以内(移植 時までの処理 は1回以内、 本田での散布 は2回以内)
		高密度には種する場 合は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50～100 g)					
稲		1 kg/10 a	移植時		側条施用		3回以内(直播で のは種時又は移 種時までの処理 は1回以内、本 田での散布は2 回以内)

17. 登録番号 24135：ブイグットフェルテラゼクサロンL粒剤

(クロラントラニプロール 0.75 %・トリフルメゾピリム 0.75 %・チアジニル 6.0 %粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	クロラントラニプロールを含む 農薬の 総使用回数	トリフルメゾピリムを含む農薬の 総使用回数	チアジニルを含む農薬の総 使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 イネスズムシ イネトヨイムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ コブノメカ ニカメイチュウ イネツトムシ アタヒコヤガ	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約5 L) 1箱当り 50 g	緑化期 ～ 移植 当日	1 回	本剤の所 定量を育 苗箱の上 から均一 に散布 する。	1 回	1 回	3 回以内(移植 時までの 処理は1 回以 内、本田での 散布は 2 回以内)
	内穎褐変病	高密度には種する場 合は1 kg/10a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約5 L) 1箱当り 50~100g)						
		育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約5 L) 1箱当り 50 g 高密度には種する場 合は1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約5 L) 1箱当り 50~100 g)	移植 3日前 ～ 移植 当日					3 回以内(直播 での種時又 は移植時ま での処理は1 回 以内、本田で の散布は 2 回以内)
稲	いもち病 ウンカ類 コブノメカ	1 kg/10a	移植時		側条施用			

18. 登録番号 24233：ブイゲットハコレンジャーL粒剤、
登録番号 24356：ハコガード粒剤
(クロラントラニリプロール 0.75 %・トリフルメゾピリム 0.75 %・チアジニル
6.0 %・チフルザミド 3.0 粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	クロラントラニ プロールを含む 農薬の総 使用回数	トリフルメゾピ リムを含む 農薬の総 使用回数	チアジニルを 含む 農薬の総 使用回数	チフルザミド を含む 農薬の総 使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 白葉枯病 もみ枯細菌 病 イネミズゾウムシ イネトヨイムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ コブノメカガ ニカメイチュウ イネツトムシ フタホヒコヤガ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌 約5 L) 1箱当り 50 g	緑化期 ～ 移植 当日	1回	本剤の所定 量を育苗箱 の上から均 一に散布す る。	1回	1回	3 回以内 (移植時 までの処 理は 1 回 以内、本 田での散 布は 2 回 以内)	3 回以内 (移植時ま での処理 は 1 回以 内、本田 では 2 回 以内)
	内穎褐変病		移植 3 日前 ～ 移植 当日						
	いもち病 紋枯病 白葉枯病 もみ枯細菌 病 イネミズゾウムシ イネトヨイムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ コブノメカガ ニカメイチュウ イネツトムシ フタホヒコヤガ	高密度には種 する場合は 1 kg/10 a(育苗 箱(30×60×3 cm、使用土壌 約5 L)1箱当り 50～100 g)	緑化期 ～ 移植 当日						
	内穎褐変病		移植 3 日前 ～ 移植 当日						

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	クラントニリプロール を含む農薬の 総使用回数	トリフルメゾピリム を含む農薬の 総使用回数	チアジニルを含む 農薬の 総使用回数	チアザミドを含む 農薬の 総使用回数
稲	カカ類 コブノメイガ	1 kg/10 a	移植時	1回	側条 施用	1回	1回	3回以内(直播で のは種又は移植 時までの処理は 1回以内、本田 での散布は2回 以内)	3回以内 (直播では種 又は移植時ま での処理は1回 以内、本田で は2回以内)

19. 登録番号 24711：ブイゲットパディートフロアブル

(シアントラニリプロール 1.87 %・チアジニル 30.0 %水和剤)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	シアントラニリプロール を含む農薬の 総使用回数	チアジニルを含む 農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 イネミズウムシ イネトヨイムシ	25~50倍	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌 約5 L)1箱当り 500 mL	移植 3日前 ～ 移植 当日	1回	灌注	1回	3回以内(移植時ま での処理は1回以内、 本田での散布は2回 以内)
	ニカメイチュウ アオビコヤガ	25倍						

20. 登録番号 24712：リョーガパディート粒剤

(シアントラニリプロール 0.75 %・チアジニル 12.0 %粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	シアントラニプロール を含む農薬の 総使用回数	チアジニルを含む 農薬の 総使用回数	
稲 (箱育苗)	いもち病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌 約5 L)1箱当り 50 g	は種前	1回	本剤の所定量を 育苗箱の床土又 は覆土に均一に 混和する。	1回	3回以内(移植時 までの処理は 1回以内、本田 での散布は2回 以内)	
	いもち病 イネミズウムシ イネトヨイシ		は種時 (覆土前) ～ 移植 当日		本剤の所定量を 育苗箱の上から 均一に散布 する。			
	ニカメイチュウ フタホシコガ イコ類		移植 当日					
	いもち病	高密度には種す る場合は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌 約5 L)1箱当り 50～100 g)	は種前		本剤の所定量を 育苗箱の床土又 は覆土に均一に 混和する。			本剤の所定量を 育苗箱の上から 均一に散布 する。
	いもち病 イネミズウムシ イネトヨイシ		は種時 (覆土前) ～ 移植 当日					
	ニカメイチュウ フタホシコガ イコ類		移植 当日					
稲	いもち病	1 kg/10 a	移植時		側条施用		3回以内(直播で のは種時又は 移植時までの 処理は1回以 内、本田での 散布は2回以内)	

2 1. 登録番号 24715 : ブイゲットパラタス L 粒剤

(スピネトラム 0.75 % ・ トリフルメゾピリム 0.75 % ・ チアジニル 6.0 % 粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	スピネトラムを 含む農薬の 総使用回数	トリフルメゾピ リムを含む 農薬の総 使用回数	チアジニルを含む 農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 コブノメイガ ウンカ類	育苗箱(30×60× 3 cm、使用土壌 約 5 L)1 箱当り 50 g	緑化期 ～ 移植 当日	1 回	本剤の所 定量を育 苗箱の上 から均一 に散布 する	3 回以内(移 植時までの 処理は 1 回 以内、本田 での散布は 2 回以内)	1 回	3 回以内(移植時 までの処理は 1 回以内、本田 での散布は 2 回 以内)
	イネミズゾウムシ幼虫 イネトヨイムシ ツマグロヨコバイ		移植 当日					
	いもち病 コブノメイガ ウンカ類 イネミズゾウムシ幼虫 イネトヨイムシ ツマグロヨコバイ	高密度には種す る場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60× 3 cm、使用土壌 約 5 L)1 箱当り 50~100 g)	移植 当日					

2 2. 登録番号 24718 : リョーガエザルタ粒剤
(スピネトラム 0.75 %・チアジニル 12.0 %粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	スピネトラムを 含む農薬の 総使用回数	チアジニルを 含む農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌 約5 L)1箱当り 50 g	は種前	1回	本剤の所定量 を育苗箱の床 土又は覆土に 均一に混和 する。	3回以内(移植 時までの処 理は1回以 内、本田で の散布は2回 以内)	3回以内(移 植時までの 処理は1回以 内、本田で の散布は2回 以内)
			は種時 (覆土前) ～ 移植 当日		本剤の所定量 を育苗箱の上 から均一に散 布する。		
	イネミズゾウムシ幼虫 イネトモイシ フタホシコヤガ ニカメイチュウ		移植 当日				
	いもち病	高密度には種 する場合は 1 kg/10 a(育苗 箱(30×60×3 cm、使用土壌 約5 L)1箱当り 50～100 g)	は種前		本剤の所定量 を育苗箱の床 土又は覆土に 均一に混和 する。		
			は種時 (覆土前) ～ 移植 当日		本剤の所定量 を育苗箱の上 から均一に散 布する。		
	イネミズゾウムシ幼虫 イネトモイシ フタホシコヤガ ニカメイチュウ		移植 当日				
稲	いもち病	1 kg/10 a	移植時		側条施用	3回以内(直播 での種時 又は移植時 までの処理 は1回以内、 本田での散 布は2回以内)	3回以内(直 播での種時 又は移植時 までの処理 は1回以内、 本田での散 布は2回以 内)

2 3. 登録番号 24719 : リョーガフェルテラ粒剤

(クロラントラニプロール 0.75 %・チアジニル 12.0 %粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	クロラントラニプロール を含む農薬の 総使用回数	チアジニルを含む 農薬の総使用 回数
稲 (箱育苗)	いもち病	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌 約5 L) 1箱当り 50 g	は種前	1回	本剤の所定量を育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	1回	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)
			は種時 (覆土前) ～ 移植 当日		本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する。		
	イネミズウムシ イネトヨイムシ ニカメイチュウ フタホヒコヤガ		移植 当日				
	いもち病	高密度には種 する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌 約5 L)1箱 当り 50~100 g)	は種前		本剤の所定量を育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。		
			は種時 (覆土前) ～ 移植 当日		本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する。		
	イネミズウムシ イネトヨイムシ ニカメイチュウ フタホヒコヤガ		移植 当日				
稲	いもち病	1 kg/10 a	移植時	側条施用	3回以内(直播での は種時又は移植時までの 処理は1回以内、本田での 散布は2回以内)		

24. 登録番号 24720：ブイゲットバイソンEV粒剤

(チアクロプリド 1.0 %・チアジニル 12.0 %・ペンフルフェン 2.0 %粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	チアクロプリド を含む農薬 の総使用 回数	チアジニルを 含む農薬の 総使用回数	ペンフルフェン を含む 農薬の総 使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 いねむし いねこ いねみ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	緑化期 ～ 移植 当日	1回	本剤の所 定量を育 苗箱の上 から均一 に散布 する	1 回	3 回以内(移 植時までの 処理は 1 回 以内、本田 での散布は 2 回以内)	1 回
		高密度には種する 場合は 1 kg/10 a(育 苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50~100 g)	移植 当日					
稲	いもち病	1 kg/10 a	移植時		側条施用		3 回以内(直 播では種 時又は移植 時までの処 理は 1 回以 内、本田で の散布は 1 回以内)	